

平成25年8月22日
日本災害看護学会第15回年次大会

東日本大震災における 大崎市保健師の活動

宮城県大崎市岩出山総合支所
氏家 玉枝

大崎市について

【平成18年3月に合併】

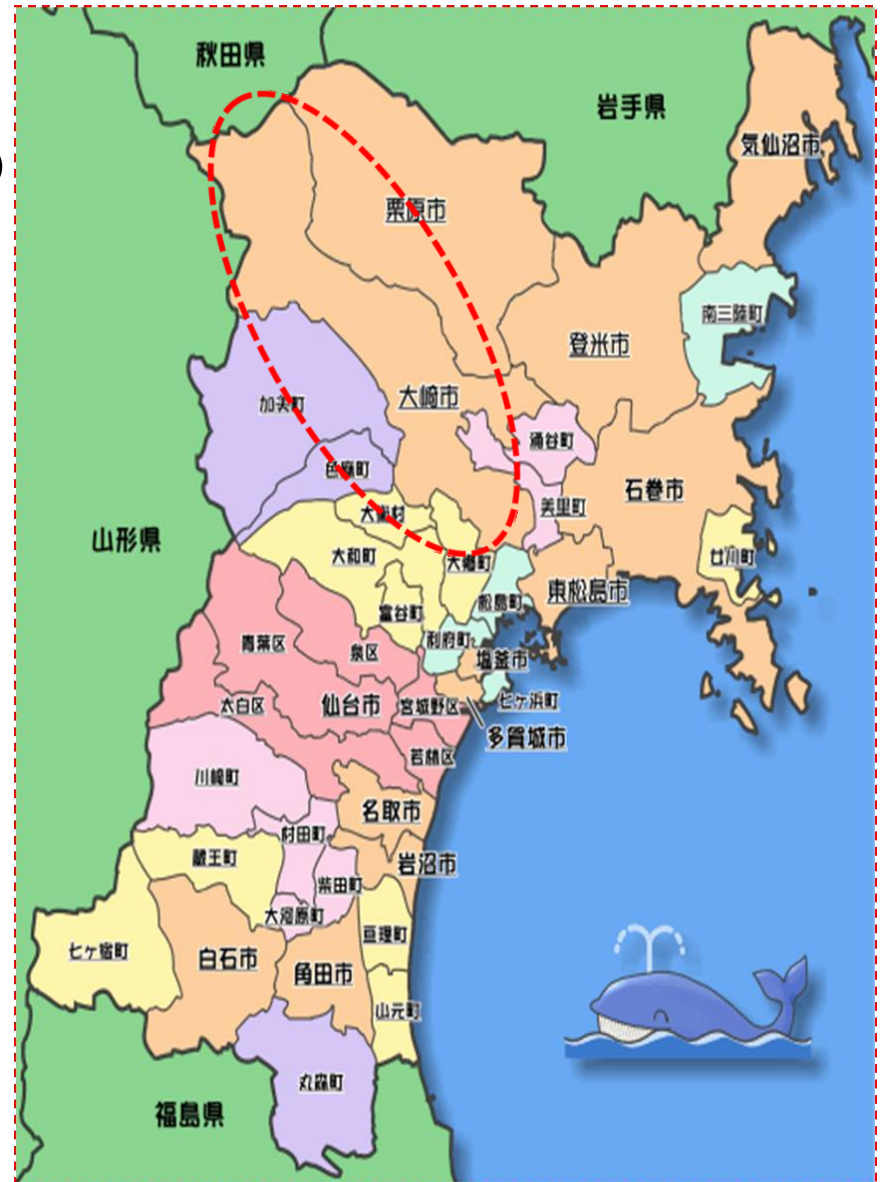
古川市，松山町，三本木町，鹿島台町，岩出山町，鳴子町，田尻町の1市6町が合併した。宮城県の内陸部に位置し，温泉が豊富で農業が中心の自然豊かなまち

人口：135,695人

世帯数：48875世帯

高齢化率：24.8%

(平成25年4月1日現在)



大崎市の保健師の配置 (東日本大震災発生当時の配置人数)



本 庁 (24人)

**F
プ
ラ
ザ**

健康推進課 14人
 ・成人保健担当
 ・母子保健担当

**本
庁
舎**

高齢介護課 6人
 ・地域支援係
 ・介護審査係

社会福祉課 2人
 ・障害福祉係

子育て支援課 1人

**病
院**

大崎市民病院 1人

総合支所保健福祉課 (30人)



松 山 4人



三本木 6人 (1人産休)



鹿島台 6人



岩出山 5人



鳴 子 3人 (1人病休)



田 尻 6人

大崎市の東日本大震災の被害状況

(H24年7月31日現在市のHPより)

- 最大震度6強 (4月7日 6弱)
- 死亡 17人 (市内6人 沿岸部11人)
- 重傷者 79人
- 行方不明者 0人
- 家屋の全壊 594棟
- 大規模半壊 233棟
- 半壊 2,190棟
- 一部損壊 9,134棟
- 公共施設の被害 71棟
- 避難所開設数 92カ所 (最大時11,082人)₄



出典:大崎タイムス その時,大崎は



出典：大崎タイムス その時，大崎は



出典：大崎タイムス その時，大崎は



出典:大崎タイムス その時、大崎は

フェーズ0(発災から24時間以内): 初動体制の確立

- 安否確認(建物内の住民・職員・家族)
- 安全確認(職場・道路・建物) ※被害状況調査
- 医療機関の情報収集 (支所)
- 避難所の開設と炊き出し
- 避難所支援

フェーズ1(72時間以内):緊急対策

—生命・安全の確保— 本庁

- 本庁保健師, 全員を集合。避難所巡回健康相談を実施。
- 市内で被害の少ない地域支所から保健師の応援
- 社会福祉課から事務職員派遣(保健師の勤務体制調整)


- (1)避難所の生活と衛生環境の整備
- (2)避難住民の健康状態と生活状況把握
- (3)医療依存度の高い住民を医療につなぐ
- (4)介護・福祉サービス提供のための調整
福祉避難所への移動支援

フェーズ1(72時間以内):緊急対策 ～支所の取り組み～

- 避難所(福祉避難所を兼ねた)開設と運営・炊き出し, 避難所の要援護者のケア(24時間)⇒3月下旬まで継続
- 地域内避難所の巡回
- 医薬品の在庫確認と調達
- 災害弱者の洗い出し・訪問・相談, 民生委員を通じての安否確認と状況把握など

6支所の取り組みはそれぞれ。しかし、避難所運営の全てが保健師の肩にかかっていたことは共通。

フェーズ2(4日目から2週間): 応急対策(避難生活の安定の対策)

- (1)避難所での住民の役割分担と自立化を促す(掃除・配膳)
 - (2)感染症対策
 - ・発熱者(インフルエンザの疑い)を個室対応
 - ・土足可だった避難所を土足禁止に。
 - ・感染症者を医療機関につなぐ
 - (3)福島県からの避難住民の受け入れ(避難所)
 - (4)生活不活発病予防(ラジオ体操の実施。啓発チラシの配布。)
 - (5)有資格者ボランティアの募集(ラジオで)⇒地域内全戸訪問へ
 - (6)DMAT医師が古川保健福祉プラザで臨時診療所開設
 - (7)当別町(北海道), 新庄市(山形県), 兵庫県から応援
 - (8)4月～通常業務開始を視野に入れはじめる
- 

応援・ボランティア等

- 社会福祉協議会ボランティアセンター
薬もらい、避難所の子ども遊び・体操の声掛け、家の片づけ
- 県外からの職員派遣(当別町・新庄市・豊岡市)
- DMAT
- 保健所リハスタッフ 連携・調整

- 医師会医師 避難所巡回
- 市民病院
- 歯科医師会
(歯みがき用品の提供・配布)

古川地域 全戸訪問(健康推進課)

- 災害FMや地元新聞で呼びかけ
専門職，大学生などが集まる
- 他県からの応援(当別町・新庄市・豊岡市)
- 他支所から保健師の応援(岩出山・鳴子)
- 対がん協会，宮城大学の有資格者の応援
- 行政区長からの事前情報提供

目的;地域住民に安心感を与える。ニーズ把握。

フェーズ3(3週間目から2か月):応急対策(避難所から仮設住宅入居までの対策)

- 3/15古川の避難所が武道館1か所に集約,巡回相談の継続
- 通常業務再開(4/1~)
- **鳴子温泉に沿岸部避難者受け入れ(4/3~)**
- 宮城県保健師の協力、沿岸部避難者の健康調査を実施(健康推進課と6支所の保健師がローテーションを組んで)4/4~

沿岸部の被災者の受け入れと支援

4月3日～ 沿岸部の被災者の受け入れ開始
鳴子温泉旅館(42カ所)

4月4日～ 健康状態の把握のため訪問

北部保健福祉事務所・小山市・大衡村の保健師，ライオンズクラブ看護師，民生部および総合支所保健師で実施

4月16日～ 保健師等を雇用して，継続活動

6月～ 旅館の広間を借りてサロン活動を開始

11月9日 閉所

避難者の多くが，要支援・要介護者を含む高齢者，障害者，小さい子どものいる世帯

人数 実 約1,074人(延べで約10万人↑)

期間 4月3日～11月9日の7か月間

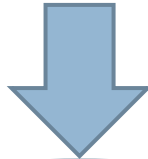
主な活動内容

健康状態の把握・相談，関係機関へのつなぎ， サロン活動

気になるのは要介護者だけではなかった・・・

- ◆家族を津波で奪われてうつろな表情の高齢者
- ◆ショックと不安で声が出なくなっていた女の子
- ◆人工透析が必要だが医療機関がわからない人
- ◆胃がんの手術を控えていた人
- ◆薬はあるが、残数がバラバラで支援が必要な高齢者

保健師や医師，薬剤師，保育士，県のリハ職，臨床心理士，睡眠アドバイザー，マッサージ師，その他たくさんの協力 により支援



調整役が重要な役割

鳴子温泉福祉避難所の支援の中で で考えたこと

- 避難所に来た人は、いずれ、通常の生活に戻られる方々である。➡ できるだけ、通常の生活に近い形での支援を。



「何もすることがない。」という状況にならないように。
避難所のリーダーさん、生活相談員、関係団体等と
情報を通わせながらの支援の継続。

フェーズ4(2か月目以降): 仮設住宅対策や新しいコミュニティづくり

- 大崎市民の応急仮設住宅入居者の健康相談開始(23年10月開始)
- 住民健診を沿岸部の方が, 大崎市で受けられるよう調整

民間賃貸住宅(みなし仮設)入居者の健康相談

【趣旨・背景】

東日本大震災で被災し、民間賃貸住宅における生活が長期化する中、こころの問題をはじめ、心身の健康状態の悪化が懸念される。

【目的】民間賃貸借上げ住宅等の入居者が安心して暮らせるよう支援する。

【内容】健康状態の把握と健康相談

【対象者】民間賃貸住宅（みなし仮設）に入居している世帯・人

【実施期間】

(1)平成23年10月～大崎市の被災者

(2)平成24年1月～沿岸部から転入の被災者

大崎市

(3)平成24年1月～3月宮城県で応急仮設住宅等入居者健康調査

宮城県

(4)平成24年12月～25年3月 みなし仮設・公営入居者健康調査(宮城県と市町村が実施主体)

平成25年度

(3)(4)の調査の結果、①K6が13点以上②一人暮らし高齢者③治療中断者④朝から飲酒⑤眠れない⑥食欲がない の項目に該当した人を対象に実施

平成24年度民間賃貸住宅健康相談 の実施状況(平成24年5月～25年3月)大崎市データ

- 訪問実施世帯 503(初回137)
- 健康相談実施世帯 227

大崎市民世帯	73
元沿岸部で大崎市民になった世帯	70
大崎市以外の世帯	84

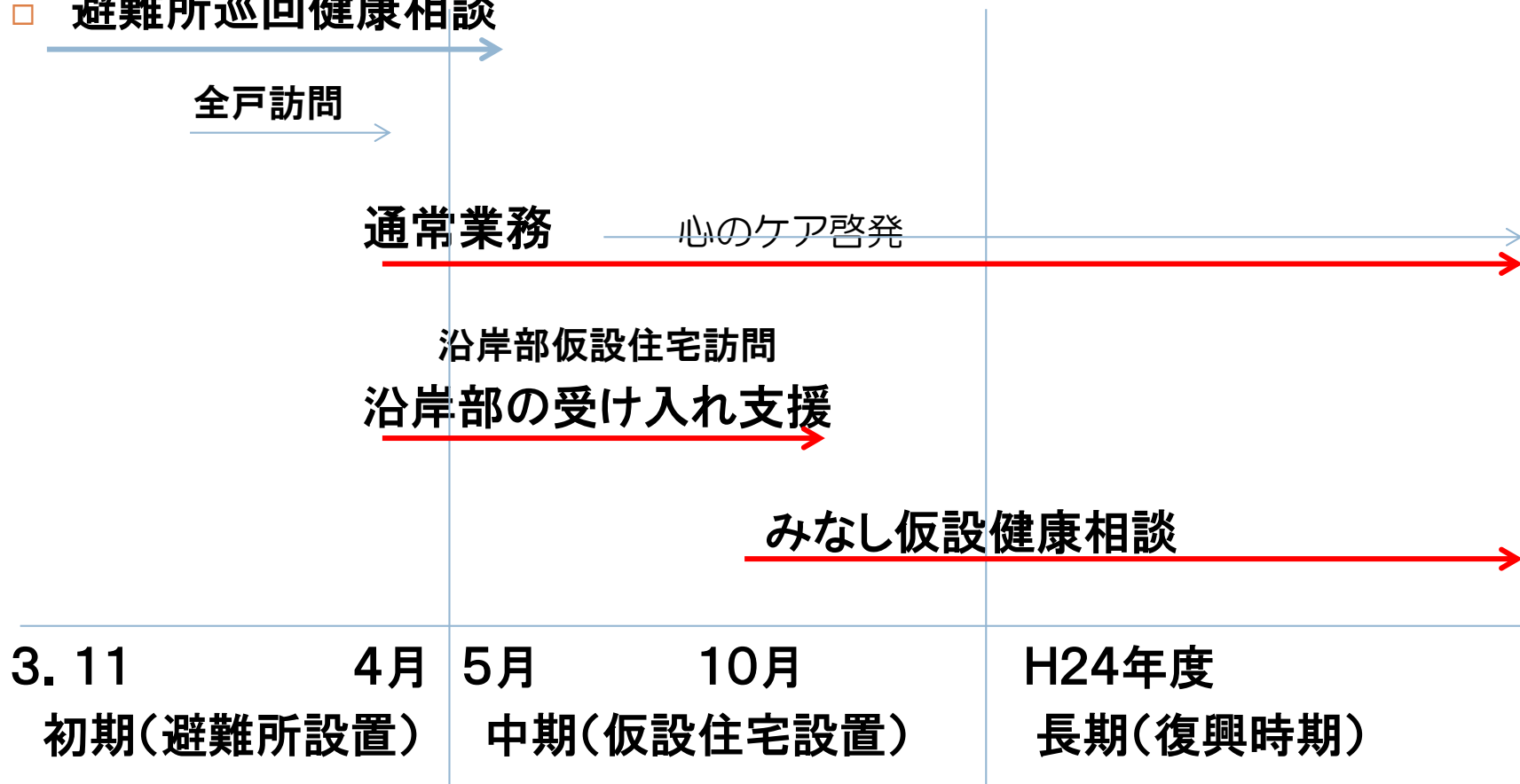
- 健康相談実施者数547人(初回186)
- 健康相談で気になった人 100人(①成人33人・高齡60人・障害4人・母子3人) → 継続支援必要 93人

支援の必要な方へのフォロー

- みやぎ心のケアセンターの職員からのスーパーバイズ(同行訪問も含む)
- 地域包括支援センター, ケアマネ等へつなぐ
- 民生委員への連絡
- 交流会等のお知らせ
- 受診のすすめ
- 健診のお知らせ
- 話し相手を含めた継続支援

3. 11以降の大崎市の保健師活動

□ 避難所巡回健康相談



大崎市保健師人材育成事業 平成20年4月～

【目的】市民に対し質の高い地域保健活動の提供をするために、行政の保健師として、配置された職務に適応し、期待通りの実践能力を発揮できる。

【目標】

- (1)研修会や事例検討会、情報交換会を行うことにより、市の課題や方向性等を共有できる。
- (2)お互いのネットワークを作り、スムーズに仕事ができる。

大崎市保健師人材育成事業の経過

平成19年度 庁内での体制整備

宮城大学看護学部との連携協力事業としての立ち上げ。

宮城県北部保健福祉事務所の協力。

平成20年4月～『大崎市保健師の専門能力の強化に関する連携協力事業』

◎「行政保健師の専門能力育成・強化に関する研究」

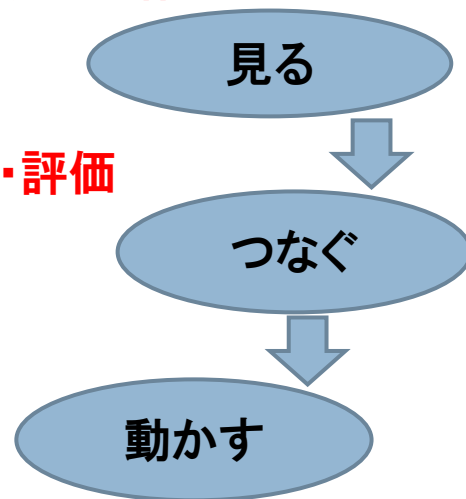
◎「人材育成プログラム検討委員会」設置⇒**人材育成プログラムの作成**

平成21年4月～ 「大崎市人材育成プログラム実施計画」**実践・評価**

平成22年3月 テーマ「**わたしもあなたも大崎市の保健師**」

平成23年6月人材育成実行委員会に改称。

「**震災時の振り返りについて**」



振り返り, 共有する

東日本大震災における大崎市の保健師活動

- 所属（場所）
- 被害状況
- 活動経過
- 記録に残しておきたい活動
- 今後に向けて必要な検討事項



発表

振り返り, 感じたこと・気づいたこと (グループワーク)

※宮城大学震災復興特別研究として, 支援を得ながら実施

所属（場所）		
被害状況 （人的被害、家屋等の被害、避難所、避難者等）		
活動経過 （日時、活動内容を記入）	内 容	
記録に残しておきたい活動		
今後に向けて必要な検討事項		

記録に残しておきたい活動

- 避難所での巡回と関係課との連携，申し送りノート
- 避難所の運営や役割分担
- 福祉避難所の入所決定方法と施設への連絡方法・誘導
- ボランティアセンターの活用，ボランティアの調整
- 在宅者の健康状態把握の方法と関係課との連携
- 要援護者情報の整備と共有（紙ベースでの準備）
- 医療依存度の高い人への支援体制
- 他市町の避難者の受け入れ
- 民間賃貸住宅（みなし仮設）入居者への健康相談
- 本庁・支所の保健師の協力体制と即戦力

3. 11を体験して感じたこと・・・

保健師活動に必要なこと

- 保健師自身が、心身ともに健康であること
- **仕事を通しての様々なネットワーク**を持っていること(住民と。保健医療福祉関係者と。職員間と。同職種・他職種, その他の人と。・・・)
- 非常事態でも、初対面でも**人間関係をつくり**, チームとして機能できること
- 災害時は平常時の応用問題の連続。変化に対応できる柔軟性を持っていること。マニュアルありきではない。
- 役立ったのは**頭の中のマニュアル**
- 対象者をトータルで見れて、保健医療福祉**サービスにつなぐ**ことができる。
- どこに何があるか(ソフト, ハード)誰がいるか, 誰がどんなことができる人かわかっていること
- **地域・住民とのつながり**

災害時における保健師活動に必要なこと

- 地域がわかる。見れる。(どこにどんな人がいて, どんな課題を持っているのか)⇒平常時の課題は災害時でも課題
 - 総合的に生活を見ることができる
 - 状況把握力と知識・判断力
 - 日頃のつながり(住民, 関係者, 職員。そして保健師同士)
 - できることをする(経験知を活かすことができる)
- 「見る」「つなぐ」「動かす」が基本
公衆衛生の基本・基礎を持っていること

ご清聴ありがとうございました。

